

## T365 メールソフト (WindowsLiveMail) の設定 (POP)

1. WindowsLiveMail を起動し、メニューバー[アカウント] ⇒ [電子メール]をクリック

2. 電子メールアカウント追加画面が出るので必要項目を入力後 [次へ] クリック

電子メールアドレス : ご利用中のメールアドレス (\*\*\*\*@tokai-u.jp など)  
パスワード : 情報サービス利用パスワード (T365 パスワード)  
パスワードを保存する : チェック  
表示名 : 分かりやすい名前  
手動でサーバー設定を構成する : チェック

Windows Live メール

### 自分の電子メール アカウントを追加する

Windows Live ID をお持ちの場合はここでサインインしてください。  
[Windows Live にサインイン](#)

電子メール アドレス:  Windows Live メール ではほとんどの電子メール アカウントをお使いになれます。たとえば  
Hotmail  
Gmail  
などが利用可能です。

新しく Windows Live メール アドレスを作成する方は[こちら](#)

パスワード:

パスワードを保存する(B)

表示名:

手動でサーバー設定を構成する(C)

3. サーバー設定構成画面が表示されるので入力後[次へ]をクリック

### 受信サーバー情報

サーバー種類 : POP  
サーバーのアドレス : outlook.office365.com ポート : 995  
セキュリティで保護された接続 (SSL) が必要 : チェック  
次を使用して認証する : クリアテキスト  
ログオンユーザー名 : 教職員番号@cc.u-tokai.ac.jp

### 送信サーバー情報

サーバーのアドレス : smtp.office365.com ポート : 587  
セキュリティで保護された接続 (SSL) が必要 : チェック  
認証が必要 : チェック

Windows Live メール

## サーバー設定を構成

電子メール サーバーの設定がわからない場合は、ISP またはネットワーク管理者に連絡してください。

<b>受信サーバー情報</b>	<b>送信サーバー情報</b>	
サーバーの種類: POP	サーバーのアドレス: smtp.office365.com	ポート: 587
サーバーのアドレス: outlook.office365.com	ポート: 995	<input checked="" type="checkbox"/> セキュリティで保護された接続 (SSL) が必要(R)
<input checked="" type="checkbox"/> セキュリティで保護された接続 (SSL) が必要(R)		<input checked="" type="checkbox"/> 認証が必要(A)
次を使用して認証する: クリア テキスト		
ログイン ユーザー名: [redacted]@cc.u-tokai.ac.jp		

キャンセル 戻る 次へ

4. 「電子メールアカウントが追加されました」が表示されたら設定完了。[次へ]

Windows Live メール

## 電子メール アカウントが追加されました

[redacted]@tokai-u.jp が追加されました

[別の電子メール アカウントを追加する](#)

完了(E)

6. 送受信を開始します。

※設定後最初の送受信ではサーバーにあるメールをすべて受信するため多少時間がかかります。

**McAfee** をお使いの方は引き続き、次ページ以降のウィスル対策ソフトウェアの設定も行ってください。

---

「東海大学コミュニケーション&コラボレーションシステム (T365)」の利用について

(T365 をメールソフト(Windows Live メール等)で設定する際の注意点)

---

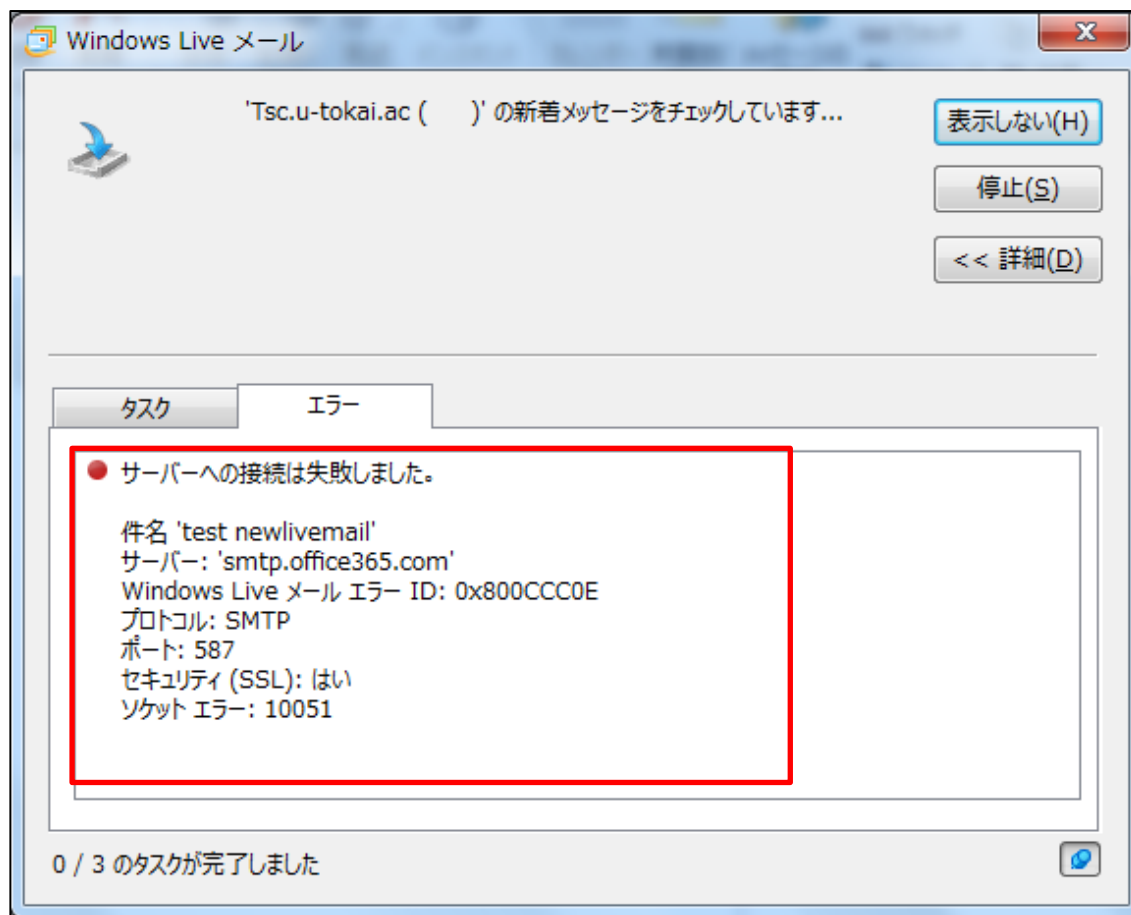
※T365 を Outlook 以外のメールソフトで設定する際に、ウィルス対策ソフトがメールの送信をブロックする現象が確認されています。

現時点では、McAfee がインストールされているパソコンで T365 を Windows Live メールに設定した場合、メール送信時にエラー表示されることが確認されています (メール受信は通常どおり行えます)。

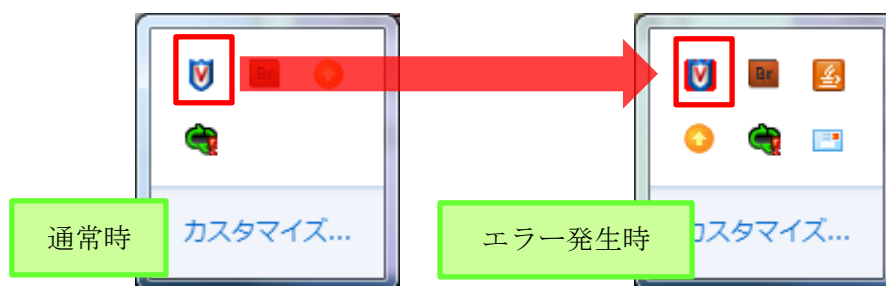
この組み合わせでメールソフトを利用する方は、本マニュアルを参考に、マカフィーの設定変更を行ってください。

T365 を Outlook 以外のメールソフトに設定してメールを送信する際に、エラー画面が表示される場合があります。メール送信時に以下のようなエラーが表示された場合、ウイルス対策ソフトがメール送信を止めている可能性があります。

現時点では McAfee がインストールされているパソコンで、T365 を Windows Live メールに設定した場合、メール送信時にエラー画面表示されることが確認されています。

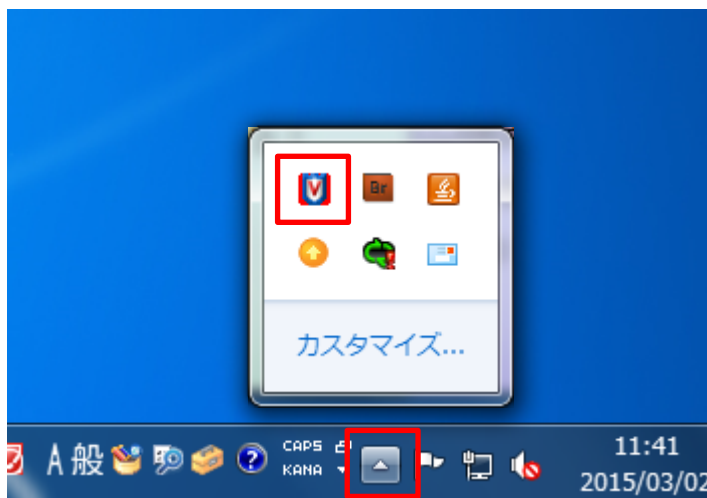


以下の画面は、デスクトップ右下に表示されるウイルス対策ソフトのアイコンになります。送信時にエラーが表示された際、このようにアイコンも変化します。

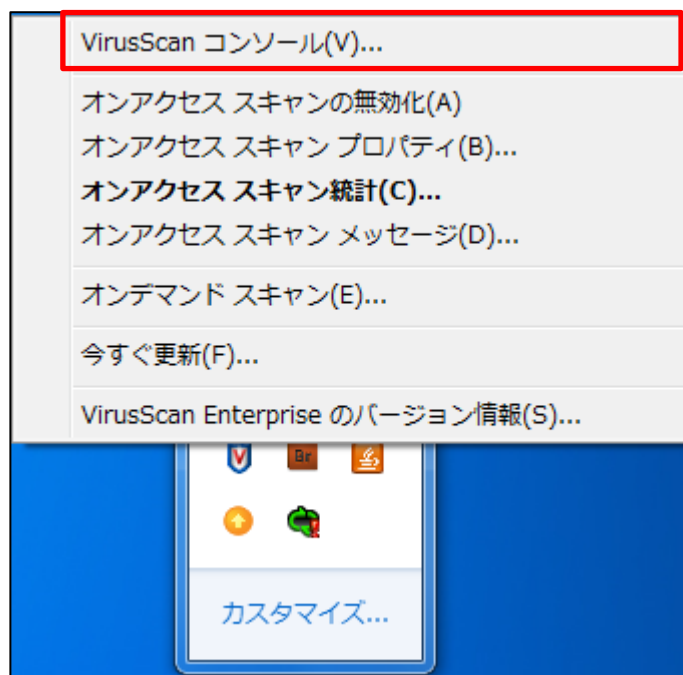


このようなエラーが表示された場合、ウイルス対策ソフトで設定を変更する必要があります。McAfee がインストールされているパソコンで、T365 を Windows Live メールに設定した場合を例に、設定の変更方法について説明します。

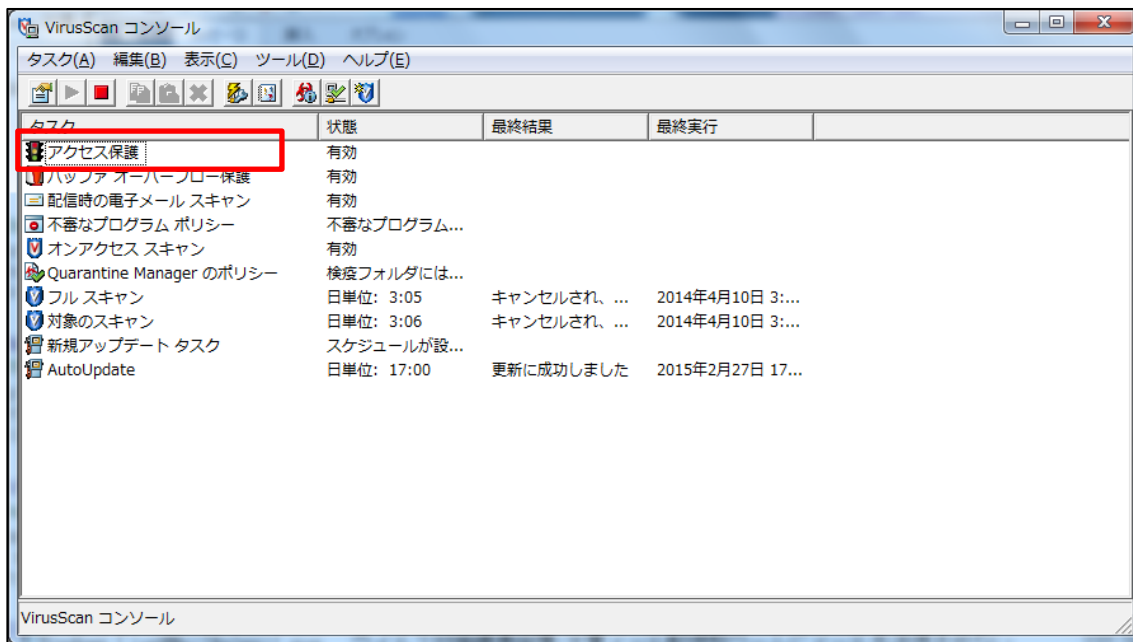
1. タスクバーの「△」をクリックして、表示される McAfee のアイコンを右クリックします。



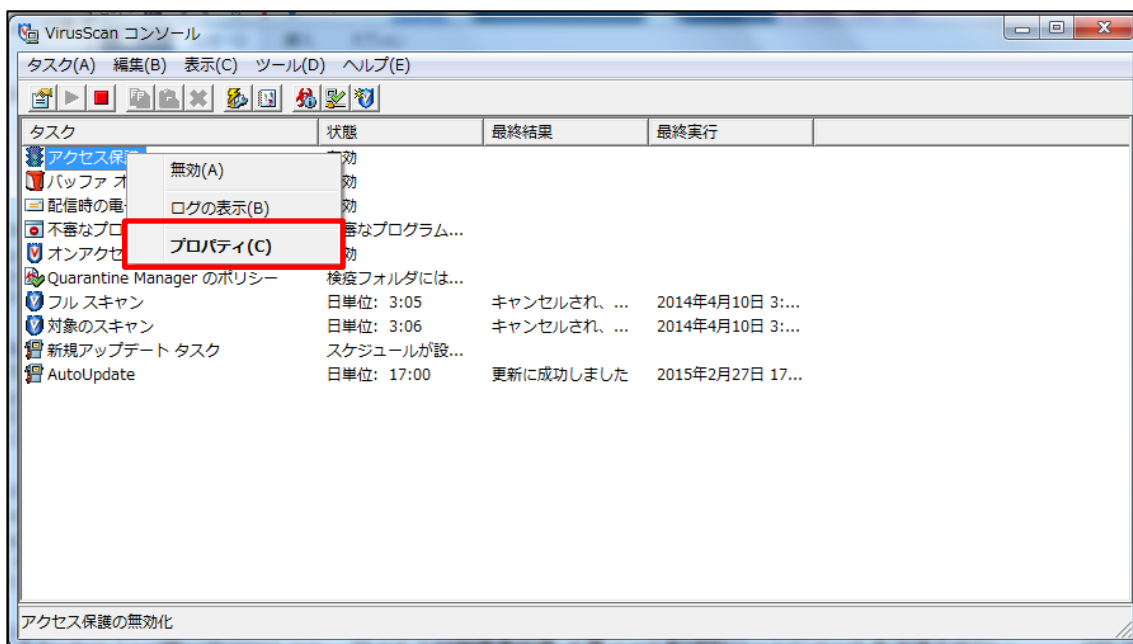
2. 「VirusScan コンソール」をクリックします。



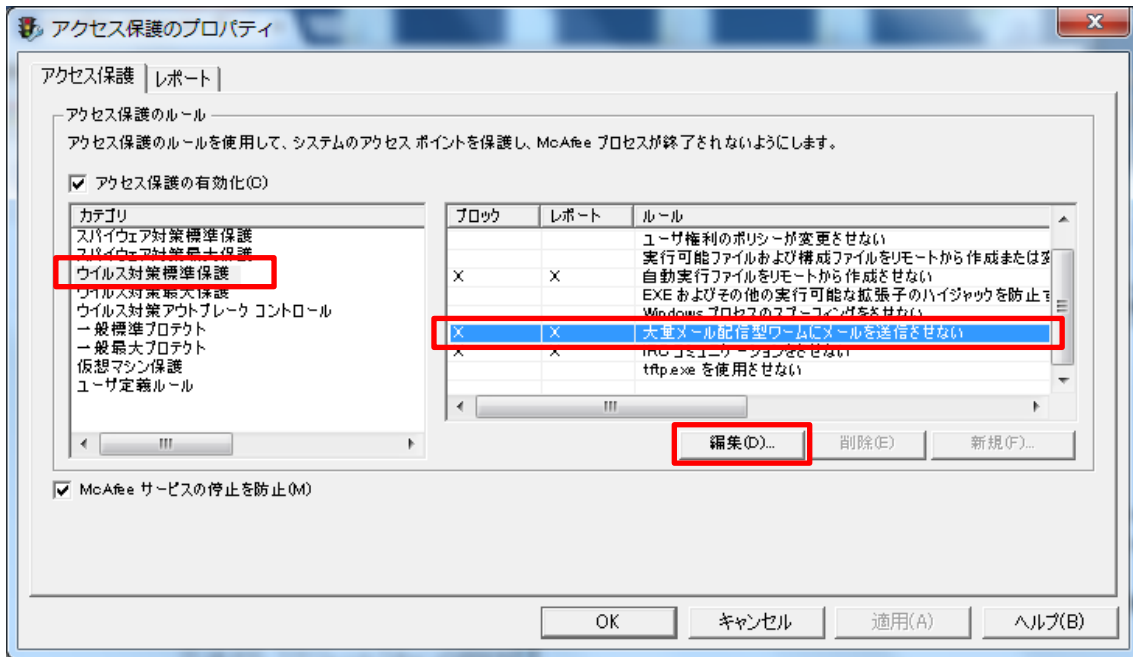
3. VirusScan コンソールの画面が表示されますので「アクセス保護」を右クリックします。



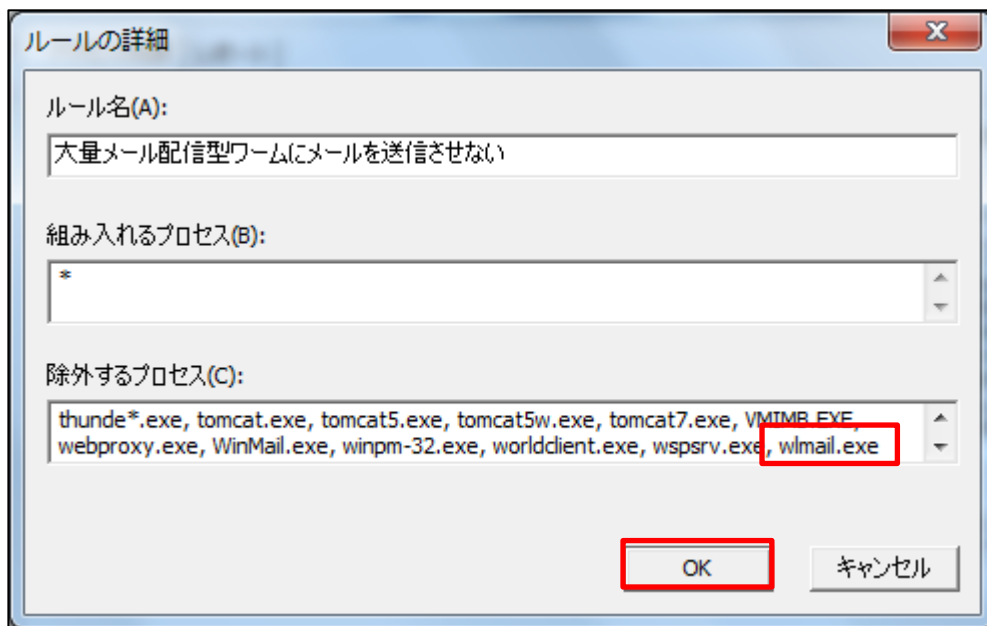
4. 「プロパティ」をクリックします。



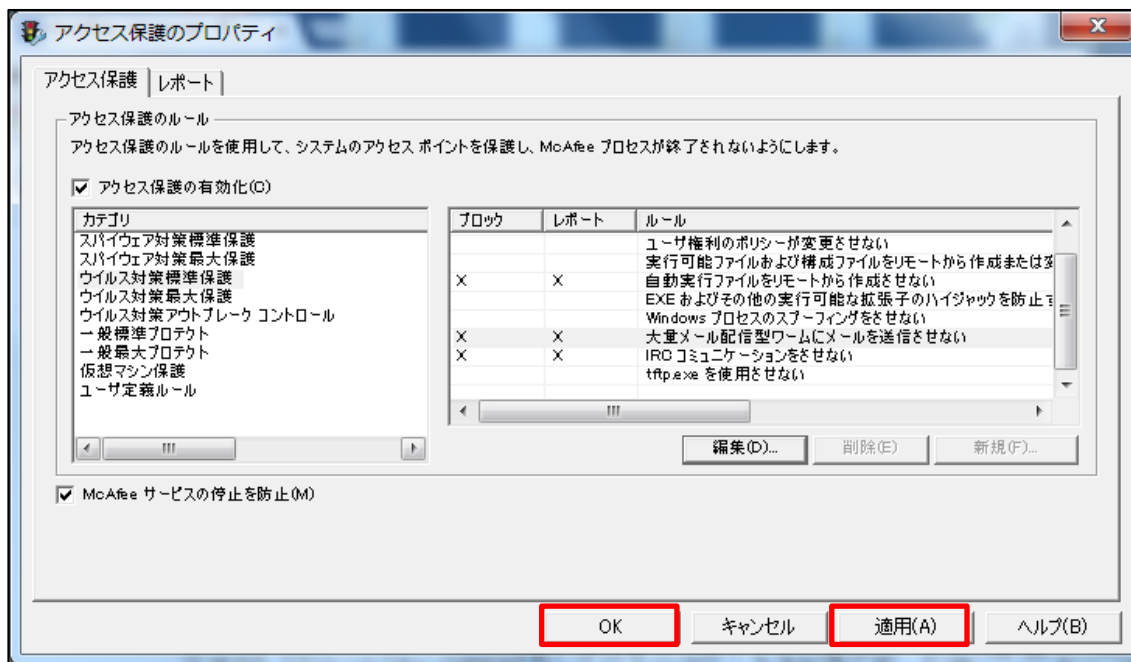
5. 「ウイルス対策標準保護」をクリックすると画面の右側にルールの一覧が表示されますので「大量メール配信型ワームにメールを送信させない」を選び、[編集]ボタンをクリックします。



6. ルールの詳細が表示されますので「除外するプロセス」の文末に「wlmail.exe」を入力し[OK]ボタンをクリックします。



7. [適用]ボタン、[OK]ボタンをクリックし、McAfee の画面を閉じてください。



以上でウイルス対策ソフトの設定変更は終了です。メールソフトからメールの送信が可能かご確認ください。